

第13回デジタル田園都市国家構想実現会議 デジタル田園都市国家構想総合戦略の着実な実行について

2023年6月2日
東日本旅客鉄道株式会社
取締役会長 富田 哲郎

昨年12月策定の総合戦略について、半年を経過したこのタイミングで進捗を確認するなど、年末の改訂に繋げていくサイクルはブラッシュアップとして最適と考える。特に、本構想の前提となるデジタル基盤の整備については、「デジタル田園都市国家インフラ整備計画」が4月に改訂・公表されており、引き続き着実な推進をお願いする。また、各地の優良事例のカタログ化は地方創生策を自治体に明確に示し、導入コストについてもパッケージ化による軽減を図るなど、本構想の実現に向けた国の意気込みを感じる。

今後、「全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会」を実現していくにあたり、以下2点をお願いしたい。

(1) デジタル技術を活用した「交通のリ・デザイン」

人口減少等が進む中、物流・人流を持続可能なものとしていくためには、デジタル技術を活用した効果的な「交通のリ・デザイン」を進めることが重要である。特に、「2024年問題」による物流網の停滞が懸念される中、流通の省力化とGXの観点からも、複数事業者の連携による物流の鉄道へのモーダルシフトや人流面でのオンデマンド型地域交通の整備が求められる。また、地域活性化に資するMaaSを活用した観光流動づくり等をより一層推進していくべきである。「交通のリ・デザイン」は自治体、交通・物流事業者、地域産業事業者等の多様な関係者の連携・協働が必要であり、それを後押しするDX主導の地方創生の取組みについても引き続き国の支援をお願いしたい。

(2) 「誰一人取り残されないデジタル社会の実現」に向けた伴走型支援の実施

「誰一人取り残されないデジタル社会の実現」のためには、国、自治体、大学、民間企業等が連携し、それぞれの地域において継続性のある活動に取り組むことが重要である。当社では、「デジタル推進委員」に任命された社員を中心として、「デジタルよろず相談所」を開設している。駅の業務に留まらない、マイナンバーカードの申請及びマイナポータルの活用方法の周知等は、当社社員に新たなやりがいをもたらしている。

総合戦略では「伴走型支援」の重要性に言及を頂いている。地域課題に精通する地方支分部局職員の方々が、デジタル社会の実現に向け、具体的な地方創生策にも関与することは、地域経済社会のデジタル化を推進するばかりか、職員の方々の活躍フィールドの拡大とエンゲージメントの向上にも寄与すると考えるため、引き続き伴走型支援の拡充をお願いしたい。

- 「デジタル田園都市国家構想」の一環で、デジタル庁が推進する「誰一人取り残されない、人に優しいデジタル社会」の実現に向けた各種取組みへ参画。
- 4月29日から行われたG7群馬高崎デジタル・技術大臣会合に合わせ、デジタルよろず相談所を開設。G7期間中に各地で相談所を実施。デジタル推進委員へも応募。
- G7後も継続し、グループ計48箇所（駅27箇所、駅たびコンシェルジュ21箇所）で計画中。

●実施箇所・日程（G7期間中）

場所	開設日	時間
高崎駅	4/28（金）～30日（日）	9:30～17:00（29日は9:00～）
前橋駅	4/28（金）～30日（日）	10:00～12:00、14:00～16:00
渋川駅	4/28（金）～30日（日）	10:00～12:00、14:00～16:00
東京駅	4/28（金）～30日（日）	10:00～14:00
三鷹駅	4/28（金）	13:30～16:30
八王子駅	4/28（金）～29（土）	13:00～15:00
水戸駅 （笠間ひまつり会場）	4/29（土）～5/5（金）	9:00～16:00

●ご案内内容

- ・マイナンバーカードの申請方法、マイナポータルの活用方法
- ・えきねっとやJREPOINTなど当社施策全般

●デジタル推進委員登録人数

登録人数（JR東日本グループ計）

1,395名（※5月31日時点）

●各駅の実施の様子

【高崎駅】



若宮正子様 ご視察

【前橋駅】



お待ちいただくお客さま
へのフォロー



お客さまの実際のスマホ
にてご案内

【渋川駅】



ご夫婦でご相談

【東京駅】



GW輸送ピーク日での実施

【三鷹駅】



車両センター社員も参加

【八王子駅】



八王子市・ビックカメラ様
との共同開催

【水戸駅】



イベント会場での
出張相談所